

主の回復における唯一の働き

(木曜日——午後の部)

メッセージ 3

昇天における、その霊による、神聖な水流の中の働き

聖書：使徒 1:8-11, 22, 2:4, 33, 4:33, 5:31, 13:1-4

I. 主の回復における唯一の働きは、昇天における働きです——使徒 1:9-11, 2:33, エペソ 1:22, 2:6:

- A. キリストは昇天において御座に着き、宇宙における万物のかしらとされました。彼は御座において、かしら、主、王、油塗られた方であり、宇宙ですべての力とすべての権威を持っています——1:22, マタイ 28:18:
1. わたしたちは昇天におけるキリストと連合されているので、わたしたちも彼と共に天へともたらされました——エペソ 2:6。
 2. 神は宇宙におけるすべての権威を、復活し昇天した神のキリストに与えました。そしてわたしたちはキリストの中にあります。ですから、わたしたちはキリストと共に天で御座にいます。
 3. キリストにとって、昇天は彼の御座に着くことです。わたしたちにとって、昇天は天上での御座におけるわたしたちの地位です。
- B. キリストは昇天において新しい領域へと、天へともたらされました。彼は天でもう一つの生活ともう一つの務めを持っています。天における主の生活と務めは、使徒行伝の内容です——2:33-34, 36, 5:31。
- C. 使徒行伝の主題は、復活したキリストの増殖についてであり、それはキリストによって彼の昇天において完成されます——1:9-11, 2:33, 4:33:
1. 復活したキリストの増殖は、主によって天における御座から執行されます——1:22, 3:13, 15, 4:10。
 2. 昇天は地上での主の働きの性質と範囲です。ですから、今日の主の回復における働きは天的な性質を持つべきであり、天的な範囲にあるべきです——エペソ 1:22。
- D. 今日の多くのいわゆるクリスチャンの働きは、昇天における働きではありませんが、主の回復における働きは、主の昇天における働きでなければなりません。わたしたちは、キリストの昇天の中で働いていると証しすることができるべきです——使徒 2:32-33。
- E. 昇天したキリストは、彼の昇天の中でわたしたちの中へと入って来ました。彼はわたしたちの内側で彼の昇天の中にいます——コロサイ 1:27, 3:1, ローマ 8:10, 34:
1. 主は今日、昇天においてわたしたちの霊の中にいます——IIテモテ 4:22。
 2. キリストの昇天において、三一の神はわたしたちの中で行動しており、この行動は彼の歴史となり、またわたしたちの歴史となります。なぜなら、彼とわた

したちはミングリングされて一となり、同じ歴史を持つからです——I コリント 6:17。

II. 主の回復における唯一の働きは、その霊によって執行される働きです——使徒 1:8.

2:4. 13:2, 9:

A. 聖霊の働きには二つの面があります。それは内側の命のための面（本質上の霊）と、外側の力と権威のための面（エコノミー上の霊）です——ヨハネ 14:17. 20:22. ルカ 24:49. 使徒 1:5, 8:

1. キリストにあるあらゆる信者は、その霊の両方の面を経験すべきです——ルカ 24:49. ヨハネ 14:17. 20:22:

a. わたしたちは内側で、命のために聖霊を飲む必要があります、外側で、力と権威のために聖霊を着せられる必要があります——I コリント 12:13. ルカ 24:49. 使徒 1:5, 8。

b. わたしたちは内側で、命のために聖霊の息がわたしたちの中へと息吹き込まれる必要があります、外側で、力のために聖霊の風がわたしたちの上を吹く必要があります——ヨハネ 20:22. 使徒 2:2, 4。

c. わたしたちの命として、わたしたちの霊的存在と生存のためにその霊を経験することは、本質的です。力として、わたしたちの霊的働きと機能のためにその霊を経験することは、エコノミー的です——ローマ 8:11. ルカ 24:49. 使徒 1:5, 8。

d. 命の霊に関して、わたしたちは彼を息として吸い込む必要があります。力の霊に関して、わたしたちは彼を制服として着る必要があります。これはエリヤの^{がいたう}外套で予表されています——ヨハネ 20:22. ルカ 24:49. 列王下 2:9, 13-15。

2. キリストにある信者として、わたしたちはその霊の内側と外側の満たしを経験すべきです——エペソ 5:18. 使徒 2:4. 4:8. 6:3. 13:9, 52:

a. 内側でその霊で満たされることは、命としての本質上の霊を経験することです——エペソ 5:18. 使徒 6:3. 13:52。

b. 外側でその霊で満たされることは、力と権威のために、その霊にあるバプテスマを経験することです——1:5, 8. 2:4. 4:8. 13:9。

B. 「聖霊が言われた、『さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び分け、わたしが彼らを召した働きに当たらせなさい』」——2 節後半:

1. キリストのからだの五人の忠信な主を尋ね求める肢体が、彼らの務めと断食を通して、からだのかしらに機会を与え、彼がその霊として、彼らを選び分け、彼の偉大な使命を完成するようにしました——1-2 節前半。

2. これは完全に、キリストのからだの忠信な尋ね求める肢体が、地上で天におけるかしらと協力することを通しての、その霊による、その霊の中の、その霊を伴う行動でした——1-2 節:

a. これは彼の王国の展開のために主が取られた大いなる一歩であり、人の案配による宗教運動ではありませんでした。

- b. この働きの開始には、伝道団の組織がなく、基金を募ることがなく、人の任命はなく、どんな人の計画や方法もありませんでした——3-4 節。

III. 主の回復における唯一の働きは、神聖な水流の中の働きです——創 2:8-10. 啓 22:1 :

A. 聖書で、神聖な水流、唯一の流れの観念は極めて重要です——創 2:10-14. 詩 46:4 前半. ヨハネ 7:37-39. 啓 22:1 :

1. 聖書は流れる三一の神（命の源泉としての父、命の泉としての子、命の川としての霊）を啓示しています——エレミヤ 2:13. 詩 36:9 前半. ヨハネ 4:14. 7:37-39。
2. その流れの源は、神と小羊の御座です——啓 22:1。
3. 聖書にはただ一つの流れ、ただ一つの神聖な水流があるだけです。この神聖な水流は各世代を通して流れており、唯一無二です——創 2:10-14. 啓 22:1。

B. 神聖な水流、唯一の流れは、交わりの水流です——使徒 2:42. I ヨハネ 1:3. I コリント 10:16 :

1. キリストのからだの交わりは、神聖な命の水流です。命の水流が流れる所ではどこでも、キリストのからだの交わりがあります——啓 22:1。
2. 「わたしたちを支配すべき一つの事は、神聖な交わりです。……この交わりの中に制限されることによって、キリストのからだは一の中に保たれ、務めの働きは前進し続けます。……わたしたちは交わることを学ぶなら、多くの益を、特に主の働きの中で受けます」（三一の神が三部分から成る人に命となる、第 14 章）。

C. 神聖な水流、唯一の流れは、主の働きの水流です——I コリント 16:10 :

1. 水流があり、わたしたちはそれを働きの水流、流れと呼びます。水流が流れる所に、神の働きがあります。
2. 使徒行伝は神聖な水流、唯一の流れを見せています。主の行動の中にただ一つの水ながりがあり、わたしたちは自分自身をこの一つの水ながり、唯一の流れの中に保つ必要があります——創 2:8-12. 啓 22:1-2. 使徒 2:33. 参照、15:35-41。

務めからの抜粋 :

昇天における主の務め

主の昇天は、彼の活動の終わりではありませんでした。むしろ、人・救い主の昇天はもう一つの着手でした。ルカによる福音書のライフスタディで指摘したように、キリストの昇天は、彼の天の務めへの就任、着手でした。主の胎に入ることは彼の第一の着手であり、彼の昇天はもう一つの着手でした。彼の胎に入ることは、地上での彼の生活と務めの着手でした。彼の昇天は、天における彼の生活と務めの着手でした。ですから、キリストの昇天は、彼の活動の終結ではありませんでした。そうではなく、それはさらに進んだ活動、天における彼の務めへと至る彼の着手でした。

ルカによって書かれた最初の書、彼の福音書は、主の最初の着手と、地上における彼の生活と務めを記述しています。今や第二の書、使徒行伝の必要があります。それ

は、主が昇天を通してどのような生活と務めへと着手されたかを告げています。ですから、ルカは負担を持って第二の書を書き、昇天したキリストの生活と務めを明らかにしたのです。使徒行伝では、主が昇天においてどのように生き、務めをされるかを見ます。

わたしたちはルカによる福音書にしたがって、主が地上で生きられたという事実を強調します。その生活と務めは彼の胎に入ることによって着手され、彼の復活によって終わりました。そして復活の後、主イエスは天に昇られました。この昇天は終結ではなく、もう一つの着手でした。この着手は彼を新しい領域へと、すなわち、天へともたしました。彼は天で今やもう一つの生活ともう一つの務めを持っています。この生活と務めが遂行されるのは、聖霊から処女の胎に入り、ベツレヘムで生まれたイエスによってだけではありません。それは昇天したキリストによって遂行されます。復活し昇天したキリストは、今や天で生きて、そこで務めをしておられます。天における主の生活と務めが使徒行伝の内容です。わたしたちがみな、使徒行伝のこのライフスタディの最初に、この絵で印象づけられますように。(使徒行伝ライフスタディ、メッセージ1)

昇天におけるキリストの活動

復活したキリストの増殖は、キリストによって昇天において完成されます。主イエスは地上で三十三年半、生活しましたが、今や彼は昇天の中におられます。昇天において、主はとても活動的です。わたしたちは、昇天したキリストが受動的に御座に座して、地上のあわれな状況を観察し、そのことで失望しておられると、決して思うべきではありません。違います、昇天において、キリストはとても積極的に活動しておられます。昇天した方として、彼は今や多くの事を行なっておられます。

ステパノの石打ちの事例は、昇天におけるキリストの活動の例証です。ステパノについて語って、使徒行伝第7章55節から56節は言います、「ステパノは、聖霊に満ちており、天を一心に見つめていると、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスを見た。彼は言った、『見よ、天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見える』」。主は昇天において地上の状況を見ていたとき、立ち上がられました。おそらく彼は言っておられたでしょう、「あなたがた迫害者は、ステパノを石打ちにし、彼を死に渡すがよい。しかし、わたしはあなたがたのうちの一人、タルソのサウロを得て、彼をステパノよりもはるかに強力にする。あなたがたはこれについて、何をすることができるのか？ あなたがたは石打ちにし、わたしはわたしの観察をする。しばらく待ちなさい。あなたがたは打ち破られる」。ステパノの事例は、復活したキリストが昇天においてとても活動的であることを例証します。

キリストが今や昇天にあるという事実は、彼が天におられることを意味するだけではありません。それはまた、彼が力と権威を持っておられることも意味します。昇天において、キリストは宇宙におけるすべての力とすべての権威を持っておられます。マタイによる福音書第28章18節によれば、復活したキリストは弟子たちに言われま

した、「天においても地においても、いっさいの権威がわたしに与えられている」。ですから、昇天におけるそのような権威と力をもって、主はとても活動的です。彼は何をしておられるのでしょうか？ 主は昇天した方として、彼の宇宙的な永遠の増殖を遂行しておられます。

今日なぜ地球はクリスチャンで満たされているのか、だれが説明することができるのでしょうか？ なぜこれほど多くの信者が世界にいるのでしょうか？ 偉人たちは地の支配を得ようとしていましたが、失敗しました。例えば、ヒトラーはこれを行なおうとしていましたが、結局すべてを失いました。ナポレオンは打ち破られた後、伝えられるところによれば、天を見上げて、イエスは自分を打ちたたいたと告白したそうです。ナポレオンは、主イエスは戦わなかったのに、すべてを得られたことを承認しました。この要点は、全地は打ち破られ得ない方の御手の中にあり、この方は彼の増殖を遂行しておられるということです。

昇天における働き

わたしたちは、使徒行伝の主題は復活したキリストが、昇天において、その霊により、弟子たちを通して、諸召会(神の王国)を生み出すための増殖であるという事実を強調してきました。わたしたちは、復活したキリストの増殖に関して何かを見してきました(2:24, 3:15, 5:30, 13:33)。今やこの増殖は、天の御座から主によって執行されることを見る必要があります。これは、彼の増殖の働きが、昇天においてであることを意味します。しかしながら、今日のいわゆるクリスチャンの働きの多くは、昇天における働きではありません。わたしたちは、主の回復における働きが、彼の昇天においてであることを望みます。昇天は、地上における主の働きの性質と範囲です。ですから、主の働きは今日、天的な性質を持つべきであり、また天的な範囲の中にあるべきです。

キリストがご自身を増殖しておられるのは、彼の昇天においてです。わたしたちは、彼の昇天が彼の死と復活の後に来たことを知っています。昇天におけるキリストの働きは、彼の復活の性質の中で起こります。ですから、この働きは天然のものではありません。それは天然の人の何をも持ちません。むしろ、それは復活における神聖な命のものであり、彼の昇天の雰囲気と状態の中で遂行されます。今日わたしたちはどこで働いているのでしょうか？ わたしたちはみな、キリストの昇天の中で働いていると行うことができるべきです。

その霊によって

復活したキリストの昇天における増殖は、その霊によってです。彼の増殖は、いかなるからくりや人の技巧によるものでもありません。しかし、キリストの増殖について、今日のクリスチャンの間の状況を考えてみてください。どこにその霊による増殖があるのでしょうか？ 多くの場合、その霊のものはほとんどなく、人の方法や技巧を多く用いています。例えば、ある人たちは、福音の宣べ伝えにロックミュージックさ

え使います。わたしたちは、復活したキリストの増殖がその霊、特にエコノミー上の霊によることを、認識する必要があります。使徒行伝において、キリストの増殖を遂行するためのエコノミー上の霊を見ます。(使徒行伝ライフスタディ、メッセージ2)

その霊としての主の語りかけ

このようにして彼らが主に仕えていたとき、その霊としての主が入って来て、彼らに語って、「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び分け」と言われました(使徒 13:2)。これはここで、聖霊が主であることを示します。

しかしながら、多くのクリスチャンは、その霊は主から分離していると考えています。ある人たちは、その霊は主の代理あるいは代表であるとさえ言います。もしその霊が単に主の代表であるとしたら、第13章2節で聖霊は、「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び分け」と言われなかったはずですが、そうではなく、その霊はこう言われたはずですが、「わたし、その霊は主の代理である。わたしは主を代表し、彼のために働く。それゆえ、あなたがたはバルナバとサウロをわたしへと選び分けるべきであると、わたしは言わない。わたしはあなたがたに、バルナバとサウロを主へと選び分けるようにと告げる。なぜなら、わたしは彼のために働いているからである」。

第13章2節には主、聖霊、「わたし」があります。このわたしとはだれでしょうか？ このわたしは聖霊だけであって、主ではないのでしょうか？ 確かにこの節のわたしは主です。

五人の預言者と教える者たちは主に仕えていました。彼らが仕えているとき、聖霊としての主は彼らに語られました。これはパウロの言葉と一致します。「そして主はその霊です」(Ⅱコリント 3:17)。ですから、その霊は彼らに、バルナバとサウロを「わたしのために」選び分けるように告げることができました。この「わたし」は主と聖霊の両方です。ですから、わたしたちは、聖霊が主から分離していると考えべきではありません。違います、聖霊は、わたしたちが仕えている主です。わたしたちは仕えるとき、主に仕えるのです。しかし主はわたしたちに応じるとき、聖霊として応じられます。彼は主ですから、聖霊として、「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び分け」と言うことができたのです。

異邦人世界に福音を拡大するために、主が取られた大いなる一歩

第13章2節で、霊なるキリスト、からだのかしらとしての聖霊は、彼が彼らを召した働きのために、バルナバとサウロを選び分けるよう五人に告げました。これは、異邦人世界に彼の王国の福音を拡大するために、主が取られた巨大な一歩でした。それには伝道団の組織がなく、基金を募ることがなく、人の任命がなく、どんな人の計画や方法もなく、シリアにおける異邦人の中心、アンテオケから始まりました。それはからだの五人の忠信な尋ね求める肢体によって開始されました。彼らは務めと断食を通して、からだのかしらに機会を与え、彼はその霊として、彼らを選び分け、彼の偉大な使命を遂行させ、彼の王国を拡大し、彼の福音を宣べ伝えることを通して、

異邦人世界に彼の召会を設立するようにしました。

この主要な一步は、組織的にエルサレムに在る召会と何の関係もありませんでした。またそれは、エルサレムのペテロや他の十一人の使徒たちの権威や指揮の下にはありませんでした。それは単独にまた純粹に異邦人の中心から始まり、いかなるユダヤ的な背景や実行の雰囲気や影響からも遠く離れており、エルサレムに在る召会の実行と影響からさえ離れていました。それは完全にその霊による、その霊の中の、その霊を伴う行動であり、地上のからだの忠信な尋ね求める肢体が、天におけるかしらと協力することを通してでした。これは人の案配による宗教運動ではありませんでした。アンテオケから、神の新約エコノミーのための地上での主の行動は、完全に新しい開始を持ちました。主の行動の流れはペンテコステの日にエルサレムから始まり、その後アンテオケに来て、アンテオケから異邦人世界に前進しましたが、それはアンテオケにおける転換点において、その霊による純粹にされた開始を持ちました。(使徒行伝ライフスタディ、メッセージ 36)

一つからだとして活動し行動する

使徒行伝の全記録はまた、常にかからだとして行動した一組の人たちを見せています。最初の章から、ペテロも、ヨハネも、あの百二十人も、単独に行動しませんでした。そうではなく、この一組の人たちのすべての行動は、一つからだの行動でした。百二十人は一つ思いで共に祈り、聖霊の中のバプテスマを受け、福音を宣べ伝え、イエスの証しを担い、常に一つからだとして行動し、活動しました(1:14, 2:1, 4, 14, 46-47)。第1章から第28章まで、この一組の人たちの行動は、一つからだの行動でした。

単独に行動した人を一人でも見いだすのは困難です。第8章で、ピリポはサマリアにいた時、自分自身で福音を宣べ伝えたように見えますが、ペテロとヨハネが来て彼の宣べ伝えを確証しました(5, 14-17節)。からだの上の力である聖霊は、ピリポの宣べ伝えを通して信者たちに臨んだものではありません。ペテロとヨハネが来て、サマリアの信者たちに手を置いてはじめて、からだの上にある聖霊が彼らに伝達されました。これは、ピリポの宣べ伝えでさえ、単独の行動ではなかったことを証明します。彼の宣べ伝えは、からだの動きと関係がありました。ですから、使徒行伝の章に次ぐ章が、単独の信者ではなく、からだの行動と活動を記録しているのです。

使徒行伝に記録されている活動は、からだの活動であるだけでなく、からだのため、すなわち、召会の建造のためでもありました。だれもからだと関係のない方法で行動しませんでした。そうではなく、すべての人がからだの建造のために行動しました。彼らが行なったことの結果、成果は、召会の建造でした。この書における活動は、今日のキリスト教の運動とは完全に異なります。今日のキリスト教における多くの方は、からだのものではなく、からだのためでもない方法で活動します。すでに見てきたように、使徒行伝は、絶えずからだのために、からだを通して活動し、働いている一組の人の記録です。ですから、この書で諸召会はその人たちの活動によって建

造されます。使徒行伝は、信者たちの活動、働き、行動における一つ思いの麗しい絵を内容としています。彼らは常にかからだの中で、からだのために行動しました。

一つの神聖な流れの中で行動し、活動し、働く

最後に、この書はわたしたちに神聖な流れ、神聖な川を示します。この流れは、天の御座から流れ出ています(啓 22:1)。使徒行伝で起こったことは、啓示録第 22 章の絵と同じです。神とキリスト(御座に着いた小羊)の御座から、流れは始まります。そして使徒行伝で、最初の駅であるエルサレムから始まって、地に流れて行きました。キリストのからだのすべての肢体は、この流れの中にありました。この流れが進んだとき、彼らはただこの流れの中で行動しました。この流れは、ついにアンテオケに至りました(使徒 11:19-21)。アンテオケは、流れが東から西に移行する転換点になりました。流れはアンテオケから西に向かい、エーゲ海を横断して、ヨーロッパの東部の小アジアとマケドニアの間を流れ、そこからヨーロッパに到達しました(16:10-12)。そこから、主の行動は西ヨーロッパに進み、ローマに至りました(28:14、30-31)。わたしたちは線を引いて、エルサレムからアンテオケに、西に向かって海を横断して東ヨーロッパへ、そこからローマを含む中央ヨーロッパまで流れをたどることができます。

神聖な流れは、東よりもむしろ西の方に動きました。これを理解するために、わたしたちは、歴史、地理学、当時の文明を知らなければなりません。その当時、人々が東に行くのは難しいことでした。流れは西に向かうほかありませんでした。歴史は、ローマ帝国が多くの主要道路を敷設したことを告げています。さらに、地中海の交通量は多く、パレスチナから西に航海することはとても容易でした。それだけでなく、人々の交流が多く、言語や市民権でさえ一緒にされました。旅行するために許可証を得る必要はありませんでした。ローマの市民でありさえすれば、その人は地中海全域にわたって旅行することができました。このようにして、すべての異なる国がローマ帝国の支配下になりました。

使徒行伝第 2 章でエルサレムから始まって、一つの流れだけがこの地上にあり、初期の弟子たちはみな、その流れの中で行動し、活動し、働きました。流れには二つの支流がなく、常に一つでした。主によって起こされた人たちはみな、遅かれ早かれ、その流れへともたらされました。流れが西に進んでいた間、アクラ、プリスキラ、アポロや他の人たちのような信者たちが主によって起こされて、この一つの水流へともたらされました(18:2、24-28)。

一つ以上の水流の記録はありません。バルナバは、ある時点までこの一つの流れの中にいました。その後、彼は流れから分離されました(15:35-39)。これに続いて、バルナバのそれ以上の記録は使徒行伝にありません。それは、彼がもはや流れの中になかったからです。流れの一つの水流、一つの川だけがありました。流れは、あらゆる方向に分岐して、人を混乱させる現代の高速道路のようではありませんでした。新エルサレムの中には、一つの流れ、一つの道があるだけです。

今日、バルナバの働きによって例証されるように、一つの流れの中にない多くの働きがあります。バルナバの働きは流れの中にありませんでしたが、使徒パウロと彼の同労者の働きは流れの中にありました。わたしたちは主のために働いても、わたしたちの働きは一つの神聖な流れの中にないかもしれません。召会のすべての歴史を通して、常にある状況がありました。すなわち、何人かのクリスチャンの働きはこの唯一の流れの中にありましたが、多くの働きは、たとえこれらの働きが主のためであったとしても、流れの中にありませんでした。例えば、ローマ・カトリックの働きは主のための働きですが、それは一つの流れの中にありません。流れの中の働きは、主の現在の証しの働きです。(キリストと召会の光の中での新約の概略(1)、第8章)